

# Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより  
第63号

## ななえ古写真物語 VOL. 63

### ななえの養蚕

七重官園写真帖より

明治10年頃

緑町・鶴野地区？



七飯町における養蚕の歴史は、江戸時代にまで遡ります。実際に養蚕がこの町で行われていたことを知らない人も多いと思いますが、寛政12年（1800）に、蝦夷地の警備と開拓を目的に移住してきた八王子千人同心たちは、勇払と白糠に分かれ、その任務を全うしようとしませんが、厳しい気候風土に順応することが出来ず、病死者が続出したため、この計画は失敗に終わり、多くの同心達は帰郷したり箱館奉行を頼って四散したといわれています。

そんな中、組頭だった石坂武兵衛という人物は、蝦夷地の留まることを願い出て、享和元年（1801）に七重村に住むことになりました。武兵衛のその後を伝える史料が見つからないため、その後の詳細はわかりませんが、彼の母が養蚕の経験を生かして村民に機織を教授したと伝えられています。恐らくこれが、ななえにおける養蚕の始まりだろうと考えられます。

時が流れ、安政元年（1854）から、三回に分け、再び八王子千人同心の一同が七重村に移住してきます。彼らは、農地の開墾に従事する一方で、当時ななえに開設されていた「七重村御薬園」を手伝い、桑や楮（こうぞ）を植えて、機織や製紙を行っていました。

このようにしてみると、七飯町の養蚕の歴史には、八王子千人同心が深く関わっていることがわかります。

また、七重村御薬園で園丁長として活躍していた吉野鐵太郎の記した文書を読むと、吉野家では、江戸時代末期から明治14年頃まで、妻が蚕を育てて生繭で機織を行っていたことが記されており、さらには、文久3年

（1863）には蚕の卵を産み付けた蚕卵紙50枚をフランスへ売却したと明記しています。このことは、鐵太郎自身が、北海道における蚕卵紙輸出の先駆けであると考えており、この時期の養蚕業の盛隆がうかがえます。

さて、上の写真は七重官園で育成していた桑畑の様子になります。おそらくは、現在の七飯駅のあたりから北斗市側の平野部のどこかであろうと考えられています。七重官園では、明治8年から本格的に大野村（現北斗市）を開墾し、現在の太田農業高等学校あたりに養蚕室を設置。生糸の生産を行っていました。残念ながら、明治19年には払い下げとなり、長く続かなかったようです。

ななえにも養蚕の足跡があったことを記憶のどこかに残して欲しい。そんな話でした。

### 3日

親子体験教室「ふぁみりーでいみゅーじあむ」では、節分にちなんで恵方巻き作りに挑戦しました。

当館友の会の協力のもと、七福神にあやかかった7種類の具材をそろえるために、卵焼きを焼いたり、きゅうりを切ったりと大忙しでしたが、子供でも上手に調理していたのにはびっくり！仕上げに、それらをご飯の上にならべ、自分たちで巻いてできあがり！

最後には、今年の恵方になる南南東を向いて、親子で一緒に食べました。

また、チャレンジして下さいね。



### 6日

夜の博物館後期講座、第3回は「紅葉館と詩歌」と題して、明治期に大沼に建てられた紅葉館という旅館の歴史とそこに残されていた往時の著名人たちの書画について話しました。

大沼の景観を描写した俳句など、実際に掛軸を見ながら、当時の写真も加えて説明があり、文学と歴史を織り交ぜた講座になりました。参加された皆さん、ありがとうございました。



講座の様子

### 23日

ジュニア探検クラブで、じゅんさい沼でワカサギ釣りに挑戦してきました。まずは、名人から釣り方のレクチャーを受け、釣り場へ移動。氷に開けられた穴に糸を垂らした途端に、ワカサギがヒットする子もいるほどで、みんなが釣ることが出来たのは、ジュニア始めて以来かもしれません。釣ったワカサギはから揚げにしたのですが、みんな皿に群がるように食べてましたよ。

午後からは、大沼公園に設置されていた氷の滑り台を堪能！ 寒かったけど楽しい一日になったようでした。



1	月
2	火
3	水
4	木
5	金
6	土
7	日
8	月
9	火
10	水
11	木
12	金
13	土
14	日
15	月
16	火
17	水
18	木
19	金 収蔵展OPEN予定
20	土
21	日
22	月
23	火
24	水
25	木
26	金
27	土 ジュニア探検クラブ
28	日
29	月 昭和の日
30	火

※4月の休館日はありません。

### 日本刀講座開催！

日本刀文化振興会様の主催で「初心者のための日本刀講座」が開催されました。日本刀に実際に触れ、その歴史や取扱いを学ぶ、素晴らしい時間でしたよ。



### 編集後記 ~tawagoto~

ここ何日かの暖気で、あっという間に雪がとけ始めている。ヤナギの枝にも柔らかな毛におおわれた新芽がみられ、少しずつ季節が変わる姿が目にとまり、そろそろ春だな・・・と思っていたのだが、ここにきて事件が発生！それは、当館で管理している分室と呼ばれるプレハブで、広範囲にわたる雨漏りが確認されたこと。年度末にきてこの仕打ちに、今年は無事に終わらせてもらえない一年なんだと痛感させられた。  
(やまだひさし)

# Richart

～ピチャリ～

第63号

平成25年3月20日 発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp